2024 年 10 月（第 1 版）　　認証番号：230ADBZX00050000

機械器具 51 医療用嚢管及び体液誘導管
管理医療機器　薬物気管支注入用カテーテル　70248000

MAC 薬物注入用カテーテル

再使用禁止

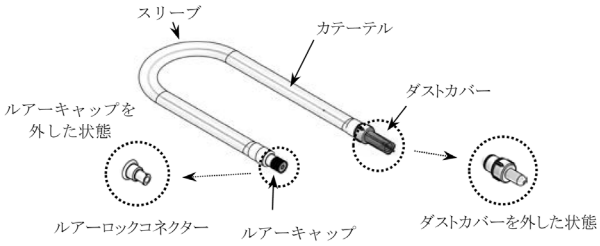
【禁忌・禁止】

1.　本品の再使用、再滅菌を行わないこと。

【形状・構造及び原理等】

本品の構成品は以下のとおり。

1.カテーテル本体



※患者の体液等に接触する原材料は以下のとおり。

カテーテル部：ポリ塩化ビニル*、インク、ABS 樹脂

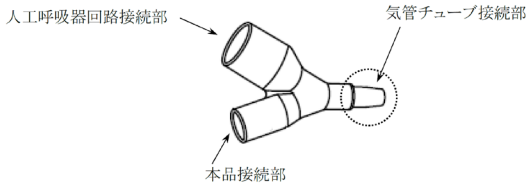
ルアーロックコネクター：ABS 樹脂

*可塑剤としてフタル酸ジ-2 エチルヘキシルは使用していない(DEHP フリー)。

2.付属品

(1) Y アダプタ

カテーテル本体と気管チューブを接続する。



(2) 7.5mm プラグ

薬液等の投与後、カテーテル本体を Y アダプタから取り外した際に回路を閉じる目的で、Y アダプタに接続する。



【使用目的又は効果】

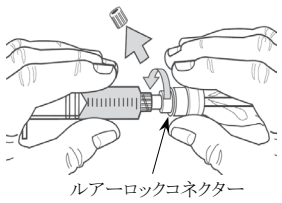
本品は、気管チューブに接続し、気管支への薬液等の注入に使用する。

【使用方法等】

(1)セットアップ

1)　薬液投与に必要なシリンジを本品のルアーロックコネクターに接続する（図 1）。

（図 1）



注意　誤接続を防ぐため、呼吸回路への接続前にシリンジを本品に接続すること。

2)　本品を適切なサイズの Y アダプタ（患者の気管チューブと同サイズの表記のもの）に接続する。

3)　2)を患者の気管チューブと呼吸回路に接続する。

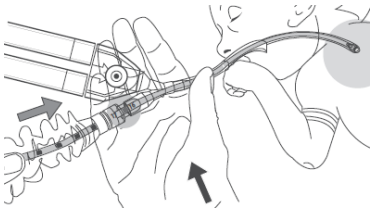
注意　接続部に閉塞やエアー漏れが生じていないことを確認すること。また、使用中は各接続部が外れないように注意すること。［閉塞、エアー漏れ、接続部の外れにより、呼吸に障害が生じるおそれがあるため。］

(2) 薬液の投与

1)　本品のカテーテルの内腔を投与する薬液で満たす。

2)　片手で本品及び Y アダプタを固定した状態で、もう片方の手の親指と人さし指を使って、適切な深さ※までカテーテルを気管チューブ内に挿入する（図 2）。

※カテーテル挿入の深さについては、「（3）カテーテルの挿入の深さの決め方」を参照すること。



（図 2）

注意　カテーテルを気道内に深く挿入し過ぎないようにすること。[気道粘膜損傷等を引き起こす原因になるため。]

3)　薬液を適量投与する。

4)　カテーテルを気管チューブから引き戻し、患者のパラメータ（SpO_2、心拍数など）が基線に戻るのを待つ。

注意　カテーテル先端にある黒いマーカーがドーム内に見えたら、カテーテルの引き抜きを止めること。

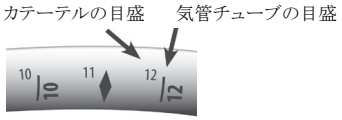
注意　気道にカテーテルを挿入したままにしないこと。必ず、カテーテル先端の黒いマーカーがドーム内に見えるところまでカテーテルを引き抜くこと。[カテーテルを気道に挿入したままにしておくと、気道抵抗が高くなる原因となるため。]

5)　必要な投与量に達するまで操作を繰り返す。

6) 薬液投与終了後、Yアダプタ及びカテーテルを取り外し、呼吸回路の状態を元に戻す。薬液投与終了後に閉鎖式気管支吸引用カテーテルとの接続を行う場合は、適切なアダプタを介して閉鎖式気管支吸引用カテーテルと呼吸回路を新たに接続する。

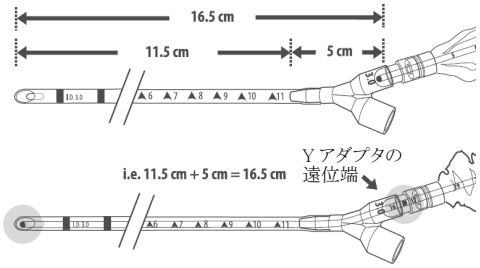
(3) カテーテルの挿入の深さの決め方
以下の2つの方法のいずれかを選択する。
＜方法1＞
1) カテーテルの目盛が気管チューブの目盛と一致するまでカテーテルを挿入する（図3）。

（図3）



2) カテーテルの先端を 0.5cm～1cm ほど気管チューブ内に引き戻す。
＜方法2＞
1) 気管チューブの遠位端の目盛を読む。
2) 1)の数値に 5cm を加える。
3) 2)の数値（カテーテルの目盛）が Y アダプタの遠位端部分に見えるまでカテーテルを挿入する（図4）。このとき、カテーテルの目盛又はカラーバンドの色を記録しておくことで、次回以降の薬液投与の際のカテーテルの挿入深さの目安となる。

（図4）



4) カテーテルの先端を 0.5cm～1cm ほど気管チューブ内に引き戻す。

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

1) 本品接続前にデッドスペース（死腔容量）についての評価を必ず行うこと。
2) 本品にアルコール等の薬剤を塗布しないこと。[本品が破損する原因となるため。]
3) 本品を接続する際に各接続部が湿潤している場合は、拭き取って乾燥させた状態で接続すること。[接続部の湿潤により、接続部の脱落又は取り外し困難が生じる可能性があるため。]
4) 本品を接続後に気管チューブの切断を行う場合には、カテーテルを気管チューブから完全に引き抜いた状態で切断すること。[本品のカテーテルが一緒に切断され、切断片が気道内等に残留して重篤な健康被害につながるおそれがあるため。]

＜不具合・有害事象＞

1) 重大な不具合
接続不良[他の製品と接続する場合は、接続部が確実に接続されていることを確認すること。]
2) その他の不具合
本品からのリーク
3) 重大な有害事象
低酸素症・低酸素血症、不整脈、徐脈・頻脈、血圧変動、無気肺、粘膜損傷、肺出血

【保管方法及び有効期間等】

1. **保管方法**
高温、多湿、直射日光及び水ぬれを避けて保管すること。
2. **使用期間**
24時間以内
3. **有効期間・使用の期限**
包装材に記載のとおり

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：
エアライフジャパン合同会社
TEL: 0120-951-321（カスタマーサービス）
外国製造業者：
Avanos Medical, Inc.（米国）